

# 長畝ふるさと通信

【2018年12月号】

## ■ 新年あけましておめでとうございます。

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。昨年は異常気象に翻弄された1年でした。一昨年の減収を更に上回る大減収となり、自然の恐ろしさを思い知らされました。「2度あることは3度ある」と言いますが、そうならないことを祈りつつ初詣で引いたおみくじは・・・「小吉」でした・・・

## ■ 右往左往の1年を振りかえる

### <1月 最強寒波で氷点下地獄>

1月末に佐渡を襲った最強寒波で軒並み水道管が凍結して破裂し、断水状態が何日も続きました。自衛隊の給水車が何台も佐渡まで駆けつけてくれました。



### <2月 ライスセンターの改修工事始まる>



30年以上もの間、頑張り続けてきたライスセンターを改修することとなり、一部解体工事が始まりました。新規に80石の乾燥機を5台、色彩選別機もより能力の高いものに更新しました。総事業費はおよそ8,000万円、地域の中核となるライスセンターに大きな期待を寄せたのですが・・・

### <3月 魚沼特A陥落>

長年王者として君臨してきた「魚沼コシヒカリ」がまさかの特A陥落。産地は大騒ぎとなりました。対策会議のニュースでは「とにかく基本に立ち返り、丁寧に取り組む」と報じていましたが、「明日は我が身」と気の引き締まる思いで見っていました。

### <4月 「密苗」で経費削減>

「苗が半分で済む！」と密苗栽培に取り組みました。通常種もみを苗箱1箱に対し140g播くところを220g～250gの密植にして試験的に取り組みました。播種量を増やすことで苗箱総数は減少し、その余剰スペースを外部への苗販売に充てることにしたのです。



### <5月 長～い田植>

5月2日から始めた田植は雨や強風のため26日までかかりました。例年より一週間も伸びたため、苗も肥料切れを起し元気がなくなり、初期生育が大幅に遅れました。

### <6月 梅雨なのに全く雨が降らない>

前年より一週間も早い梅雨入り宣言でしたが、雨は一向に降る気配すら見せませんでした。全国的には豪雨で被災した地域もある中、不謹慎にも「雨乞い」をしたくらいです。初期生育が遅れた苗は低温と降雨不足から分けつが進まず、不安だけが増す毎日でした。

<7月～8月 一転、灼熱地獄>

7月になっても雨は降らず、待っていたのは連日の「酷暑」でした。炎天下の中、畦草刈りや穂肥散布など重労働が体力を奪いました。ダムの水も底をつきだし取水制限が発令され、川から水をくみ上げるためのポンプがバカ売れしたので



です。8月上旬の出穂から登熟までの稲にとって一番大切な時期に十分な水を与えることができず、連日の酷暑からストレスを感じて養分を吸収できなかったことでコメ粒が太ることができなかったのです。

<9月 未熟粒が3倍に>

8月末から稲刈りだというのに連日の雨。「雨が欲しいときには全然降らず、いらぬときにはた



っぷり降りやがって・・・」「やっぱり1年の雨量は決まっているのだ」。田面はドロドロ、コンバインが進めない有様で連日の「手刈り」作業に笑顔は一切なし。臼摺をしてみれば前述のとおり未熟粒が例年の3倍も出てしまい、顔面が引きつりっぱなし。敗北感だけが残る始末です。

<10月 作況指数は全国最下位の86>

終わってみれば佐渡の作況指数は全国最下位の86(ちなみに全国では99と平年並みだったそうです)。グレードアップしたライスセンターの初陣は見事に散ってしまいました。唯一明るい話題と言えばトキ野生放鳥10周年を迎え、野生下のトキが365羽に増えたこと。記念式典で皇族の眞子様が佐渡でプリンセススマイルを見せてくださったことくらいか・・・。

## ■ とにかく食べてもらうこと

コメの生産量が減っても世の中がざわつかないのは消費量が減っているからです。現代人の摂取カロリーは戦後と変わらないそうです。食糧不足で食べるものさえなかった時代とは違い食糧があふれかえっているのに、身体を動かさないからカロリー消化しないのです。もっと身体を動かしてバリバリお米を食べましょう。子供たちにもっと「美味しいお米」を食べさせましょう。みんなが毎日「2合」食べればコメの生産量も2倍になるのです。農村は活気を取り戻し、地方にも人口減少に歯止めがかかります。健康な身体を取り戻し、明るい家庭が築けるでしょう。

**壮大な国家改造計画です。名付けて「おかわりは自由です大作戦」**

・・・決して某駅伝監督のまねではありません。